

(1 1) オリーブ ※果実を食用に利用する場合であって、葉を食用に利用する場合はオリーブ(葉)を参照

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 炭疽病 <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> <i>C. acutatum</i>	1. 施肥は窒素過多にならないように注意する。 2. 密植を避け、風通しがよいように整枝、せん定をする。 <薬剤使用の特記事項> 1. ICボルドー66Dは果実に汚れを生じる場合があるので注意する。 2. 本病を対象にICボルドー66Dまたはクプロシールドで12月～3月（萌芽開始期）までに防除している園場ではピーコック黒星病の発生が少なくなる。	3 月 下 旬 6 月 上 旬 6 月 下 旬 8 月下旬 ～9月上旬	11 12 M1 M1 M3	アミスター10フロアブル セイビアーフロアブル20 ICボルドー66D クプロシールド ペンコゼブ水和剤
2 梢枯病 <i>Coleophoma oleae</i>		4月下旬 ～5月上旬 9 月 上 中 旬	1	トップジンM水和剤
3 切り口及び傷口の ゆ合促進		せん定整枝時、病 患部削り取り直 後及び病枝切除 後	1	トップジンMペースト
4 オリーブアナアキゾ ウムシ	1. 成虫発生期に捕殺する。 2. 産卵期からふ化期に園内を見回り、食入 部の幼虫を刺殺する。 3. 園内を清潔にし、特に幹の周辺を清掃す る。 4. 被害程度の大きい樹は抜根し、処分す る。 <薬剤使用の特記事項> 1. スミチオン乳剤とバイオセーフは樹幹（主幹）散布する。1m以下は特にていねいに散布する。 2. スミチオン乳剤とバイオセーフは葉や果実に散布液がかからないよう注意する。 3. スミチオン乳剤は、多発生のときは10月中下旬も散布する必要があるが、収穫終了後の散布となる場合は 次作の使用回数に注意する。 4. バイオセーフは、7～10日間隔で2回散布する。盛夏期の使用は避ける。	4 月 中 下 旬 6 月 中 下 旬 8 月 中 下 旬 1 0 月 上 旬 春～初夏、秋 （幼虫発生期）	1B 3A 4A －(生)	スミチオン乳剤 アデイオン水和剤 ダントツ水溶剤 (生) バイオセーフ
5 ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモンハ マキ マエアカスカシノメ イガ クロネハイイロヒメ ハマキ	1. 被害葉や被害果実は見つけ次第除去す る。 <薬剤使用の特記事項> 1. ダントツ水溶剤はマエアカスカシノメイ ガに登録がある。	発 生 初 期	3A 4A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	アデイオン水和剤 ダントツ水溶剤 トアロー水和剤CT ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF クオークフロアブル ファイブスター顆粒水和剤 チューンアップ顆粒水和剤
6 ケムシ類		発 生 初 期	11A 11A 11A	デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF ファイブスター顆粒水和剤
7 カメムシ類	1. 防虫ネット（4mm目合以下）で園全体を 被覆する。	7月下旬 ～9月下旬	3A 4A 4A 4A 4A	アデイオン水和剤 ダントツ水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤
8 カイガラムシ類	1. せん定時に寄生密度の高い枝を切り落 とし、園外に持ち出し処分する。 2. ワイヤブラシ等でこすり落とす。	発 生 初 期	23 4C	モベントフロアブル トランスフォームフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

(1 2) オリーブ (葉) ※オリーブ(葉)は農薬登録上、果樹類のグループではなく、野菜類のグループに属し、オリーブと使用時期が異なる薬剤があるので注意する

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 炭疽病 <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> <i>C. acutatum</i>	1. 施肥は窒素過多にならないように注意する。 2. 密植を避け、風通しがよいように整枝、せん定をする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ICボルドー66Dは果実に汚れを生じる場合があるので注意する。 2. 本病を対象にICボルドー66Dまたはクプロシールドで萌芽開始頃までに防除している圃場ではピーコック黒星病の発生が少なくなる。	3 月 下 旬 6 月 上 旬 6 月 下 旬 8月下旬 ～9月上旬	11 12 M1 M1	アミスター10フロアブル セイビアフロアブル20 ICボルドー66D クプロシールド
2 切り口及び傷口の 癒合促進		せん定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後	1	トップジンMペースト
3 オリーブアナアキゾウムシ	1. 成虫発生期に捕殺する。 2. 産卵期からふ化期に園内を見回り、食入部の幼虫を刺殺する。 3. 園内を清潔にし、特に幹の周辺を清掃する。 4. 被害程度の大きい樹は抜根し、処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. スミチオン乳剤とバイオセーフは樹幹（主幹）散布する。1m以下は特にていねいに散布する。 2. スミチオン乳剤とバイオセーフは葉や果実に散布液がかからないよう注意する。 3. スミチオン乳剤とダントツ水溶剤は収穫時期に注意する。 4. バイオセーフは、7～10日間隔で2回散布する。盛夏期の使用は避ける。	4 月 中 下 旬 6 月 中 下 旬 8 月 中 下 旬 春～初夏、秋 (幼虫発生期)	1B 4A -(生)	スミチオン乳剤 ダントツ水溶剤 (生) バイオセーフ
4 ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモンハマキ マエアカスカシノメイガ クロネハイイロヒメハマキ	1. 被害葉は見つけ次第除去する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ダントツ水溶剤はマエアカスカシノメイガに登録がある。	発 生 初 期	4A 11A	ダントツ水溶剤 デルフィン顆粒水和剤
5 ケムシ類		発 生 初 期	11A	デルフィン顆粒水和剤
6 カメムシ類	1. 防虫ネット（4mm目合以下）で園全体を被覆する。	7月下旬 ～9月下旬	4A 4A	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤
7 カイガラムシ類	1. せん定時に寄生密度の高い枝を切り落とし、園外に持ち出し処分する。 2. ワイヤブラシ等でこすり落とす。	発 生 初 期	23 4C	モバントフロアブル トランスフォームフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する